

News Letter

日本精神障害者リハビリテーション学会



ともに創る、ともに暮らす

01 第32回札幌大会のご案内

研修セミナーのご案内

02 Co-design ワーキンググループの紹介

03 理事自己紹介 Part 1

04 事務局移転のご挨拶

2025年9月発行

VOL. 66



北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）池田理事撮影

【事務局】〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目
札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学第二講座 池田研究室
<https://japr.jp> Mail : japr.jimukyoku@gmail.com

01 / 日本精神障害者リハビリテーション学会 札幌大会のご案内

大会長 池田 望（札幌医科大学保健医療学部作業療法学科）

皆さま、2025年10月25日（土）・26日（日）の2日間、札幌医科大学にて開催予定の日本精神障害者リハビリテーション学会第32回札幌大会の会期が近づいてまいりました。演題発表83、自主企画プログラムは27件の申し込みを得ることができ、開催プログラムもほぼ決定しました。皆様のご協力に深く感謝を申し上げます。主要なプログラムも決定しましたので以下にご紹介致します。詳細は学会ホームページでご確認ください。

今年の夏は札幌も例年に増して暑い日々が続いております。皆様におかれましてもどうぞ体調に気をつけてお過ごしください。秋の札幌でお会いしましょう！

>> 大会概要・プログラム

テーマ：「ともにつくる」を北の大地で考える－共創社会の未来に向けて－

会期：2025年10月25日（土）～26日（日）

会場：札幌医科大学 教育研究棟・保健医療学研究棟（〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目）

大会長企画 10月25日（土）10:30-11:30

ともにつくる（共創：co-creation）精神障害者 リハビリテーションの未来

－浦河発の取り組みとともに－

座長・講師：池田 望（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）

講師：川村 敏明（浦河ひがし町診療所）

講師：高田 大志（浦河ひがし町診療所）

特別講演 10月25日（土）11:45-12:45

共同創造から共同妄想へ：VR/AR 技術を用いた 幻聴・幻視当事者研究の実践

講師：熊谷 晋一郎（東京大学 先端科学技術研究センター）

講師：畑田 裕二（東京大学大学院 情報学環）

座長：橋本 菊次郎（北海道医療大学 看護福祉学部 福祉マネジメント学科）

教育講演1 10月25日（土）15:15-16:15

触法精神障害者の未来を「ともにつくる」

－総力戦でリカバリーを追及する－

講師：賀古 勇輝（北海道大学病院附属司法精神医療センター）

座長：橋本 恵理（札幌医科大学 医学部 神経精神医学講座）



教育講演 2 10月25日(土) 17:00-18:00

当事者・家族・支援者のコラボレーティブワーク

— 家族まるごとのリカバリーを目指すメリデン
版訪問家族支援という手立て —

講師: 吉野 賀寿美 (医療法人社団 五稜会病院)

座長・指定発言: 菅原 悦子 (特定非営利活動法人
札幌市精神障害者家族連合会)

座長: 酒井 一浩 (医療法人社団博仁会 こころの
リカバリークリニック十勝)

教育講演 3 10月26日(日) 11:15-12:15

個別性を大切にする就労支援

— IPS 実践を通して見た障害者就労の過去と今
から —

演者: 本多 俊紀 (NPO 法人コミュネット楽創)

演者: 猪田 正憲 (元 IPS ユーザー)

座長: 澤田 恭一 (一般社団法人 FLaT)

大会企画シンポジウム 10月25日(土)

13:30-15:00

地域における精神医療・リハビリテーションの課
題と取り組み—北海道の実情・実践から考える—

座長: 石井 貴男 (札幌医科大学保健医療学部作
業療法学科)

座長: 永井 順子 (北星学園大学社会福祉学部社
会福祉学科)

シンポジスト: 中村 慎一 (株式会社 north-ACT)

シンポジスト: 佐々木 寛 (釧路市障害者虐待防
止センター, 釧路圏域精神障害地域生活支援セ
ンター)

シンポジスト: 中島 邦宏 (ぽかぽかハートのつ
どい)

**学会企画シンポジウム 10月26日(日)9:30-
11:00**

10年後の精リハ学会に向けて

座長: 内野 俊郎 (久留米大学病院 臨床研修セン
ター, 久留米大学医学部神経精神医学講座)

座長: 樽谷 精一郎 (大阪精神医学研究所 新阿武
山病院)

シンポジスト: 伊藤 順一郎 (メンタルヘルス診
療所しっぽふぁーれ)

シンポジスト: 彼谷 哲志 (特定非営利活動法人
あすなろ)

シンポジスト: 下平 美智代 (一般社団法人
COMHCa)

シンポジスト: 山口 創生 (国立精神・神経医療研
究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制
度研究部)

シンポジスト: 吉田 光爾 (東洋大学大学院 ライ
フデザイン学研究科, 東洋大学 福祉社会デザイ
ン学部 社会福祉学科)

心理教育・家族教室ネットワークシンポジウム

10月25日(土)

ヒューマンライツを尊重する精神医療の在り方
とは

司会: 後藤雅博 (こころのクリニック ウィズ)

司会: 中岡恵理 (希望ヶ丘ホスピタル)

基調講演 伊藤順一郎 (メンタルヘルス診療所し
っぽふぁーれ)

リフレクション 稲垣麻里子 (北海道ピアサポ
ート協会)

リフレクション 佐藤奈緒 (北海道ピアサポ
ート協会)

リフレクション 根深 拝（北海道精神障害者家族連合会）

リフレクション 伊藤さえ子（北海道精神障害者家族連合会）

リフレクション 木村尚美（ひだクリニック）

リフレクション 西内絵里沙（国立精神・神経医療研究センター）

リフレクション 賛川信幸（日本社会事業大学）

SST 普及協会シンポジウム 10月26日(日)

9:30-11:00

浦河べてるから学ぶ、当事者研究・リカバリーとSSTの役割

講師：向谷地 生良（社会福祉法人浦河べてるの家）

座談会参加者：メンバーのみなさま（社会福祉法人浦河べてるの家）

座談会参加者：安西 信雄（帝京平成大学大学院臨床心理学研究科）

座談会参加者：上村 嵯知（札幌市立栄町中学校特別支援学級）

座長：鈴木 和（北海道医療大学看護福祉学部 精神保健福祉学講座）

研修セミナー1 10月25日(土) 13:30-15:00

コプロダクション（共同創造）とリカバリーカレッジ

座長：岩崎 香（早稲田大学）

司会：彼谷 哲志（特定非営利活動法人あすなろ）

司会：坂本 明子（久留米大学）

話題提供：黒瀬 勝宏（リカバリーカレッジ KOBE）

話題提供：宮本 有紀（リカバリーカレッジおおた，東京大学）

研修セミナー2 10月25日(土) 15:15-16:45

ともに創る、ピアサポートストーリー

座長：矢部 滋也（一般社団法人北海道ピアサポート協会）

シンポジスト：小笠原 啓人（一般社団法人北海道ピアサポート協会，自立訓練（生活訓練）PEER+design）

シンポジスト：川村 亜季（株式会社フォアヴェルツ，就労移行支援事業所ディーキャリア札幌オフィス）

シンポジスト：鷲見 望（自助グループかたるべ）

研修セミナー3 10月26日(日) 9:30-11:00

ひきこもり経験を有するピアスタッフによる多機能型若者実践活動研究 -在宅活動・居場所活動・社会参画活動に着目して-

講師：田中 敦（特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク理事長）

座長：船越 明子（公立大学法人神戸市看護大学，日本精神障害者リハビリテーション学会研修委員会委員）

研修セミナー4 10月26日(日) 11:15-12:45

精神科リハビリテーション領域における研究活動への取り組み方を考える

座長：安西信雄（帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科）



座長・シンポジスト：佐藤さやか（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

シンポジスト：松田康裕（大阪急性期・総合医療センター 精神科）

シンポジスト：松長麻美（東京科学大学大学院保健衛生学研究科）

シンポジスト：小野彩香（認定 NPO 法人 Switch）

指定討論：千葉理恵（京都大学大学院 医学研究科）

市民公開トークイベント 10月26日（日）

13:15-14:45

みんなで考える「どうすればよかったか？」

司会：池田 望（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科）

ゲストスピーカー：藤野 知明（映画『どうすればよかったか？』監督 動画工房ぞうしま）

》 札幌大会 研修セミナー案内

学会研修セミナー1

コ・プロダクション（共同創造）とリカバリーカレッジ

学会研修委員 坂本明子

本研修セミナーは、当学会 Co-Design プロジェクトの企画によるものです。Co-Design プロジェクトでは精神障害リハビリテーションの専門家と利用者、利害関係者による協働の問題発見・解決（デザイン）の促進を目的としています。この目的に照らし、札幌大会では、コ・プロダクションについて考える機会を設けることとしました。

「コ・プロダクション（co-production＝共同創造）」とは、サービス利用者とサービス提供者が対等な立場で協働して取り組むあり方全般を指します。医療・福祉関係者と、患者・利用者（あるいはその経験をもつ人々）がともに何かを創り出すことに、新鮮さや魅力を感じ、実際に取り組んでみたいと考える方も増えているのではないのでしょうか。

そこで本企画では、まずコ・プロダクションの基本的な考え方や背景について概説します。その上で、コ・プロダクションによる運営を原則とす

る「リカバリーカレッジ」に関わる実践者から、リカバリーカレッジ KOBE での取り組みをもとに、コ・プロダクションの実際について話題提供を行います。さらに、各地で協働に取り組んでいる司会者と話題提供者によるディスカッションを通して、それぞれの実践や課題を共有し、共同創造のあり方について、参加者の皆さまとともに考えていきます。皆さまのご参加をお待ちしています。

学会研修セミナー2

ともに創る、ピアサポートストーリー

札幌大会 副会長 矢部滋也

ピアサポートストーリーとは私が発した言葉です。リカバリーストーリーがあるようにピアサ

ポートにもその人それぞれのストーリーがあると考えています。

そして、ピアサポートは障がい当事者だけではなく、誰もがピアサポートの当事者です。誰しものが何かしらピアであり、同じような趣味や境遇にある者同士もピアです。ラーメンの食べ歩きが好き、動物が好き、働きながら勉強している、子育てしている…同じような共通項があれば、みんなそれぞれがピアなのです。

同じようなピアに出会おうとを感じる何かはありますか。それがピアの感覚です。私たちは生活している中で同じような経験をした人たちに出会おうか出会わないか…。

中でも、少数派の悩み系のピアには出会いにくい傾向にあります。それは自己開示のしにくさが背景にあるのかもしれませんが。

本セミナーではピアサポートストーリーを聴いて頂き、ピア探しからピアサポートの感覚を得る演習を通して、誰もが当事者であるピアサポートに触れる時間にしたいと思います。参加者誰もがお互いに、分かち合い、支え合う時間です。ともに「精神的に困難な経験を本音で語れること」が大切です。

何かしらの当事者や、何かしらの専門職で、本来あるはずのない線を引くのではなく、一人の人間としてお互いの境遇を受け入れ合うピアであることを感じる機会であり、誰しも経験する人生の困難において、その困難な経験を自分自身で振り返り、経験を語る感覚を体感し、真のピアサポートを感じてみましょう！

学会研修セミナー3

ひきこもり経験を有するピアスタッフによる多機能型若者実践活動研究

－在宅活動・居場所活動・社会参画活動に着目して－

学会研修委員 船越明子

内閣府によると、ひきこもり状態にある人は全国で146万人と推定されています。これは、2024年度の出生数68万6061人の約2倍です。厚生労働省は、2022（令和4）年度から、より住民に身近なところで相談ができ、支援が受けられる環境づくりを目指して、「ひきこもり地域支援センター」の設置主体を市町村に拡充しました。現在、ひきこもり支援施策は、支援の実施主体が都道府県および指定都市から市町村に移行する過渡期にあります。また、2024年4月には孤独・孤立対策推進法が施行され、2025年3月には「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」が発表されました。ハンドブックでは、ひきこもり支援の対象を「社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生きづらさを抱えている状態の人」とし、ひきこもりを社会的孤立の一つと位置付けました。

研修企画では、札幌市を中心に長年ひきこもり支援を行ってきた特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークの理事長 田中敦さんによる講演を実施します。レター・ポスト・フレンド相談ネットワークでは、昔ながらの絵葉書からメタバースまで多様な媒体を用い、企業やピアスタッフを活用して幅広い支援を行ってられます。これからのひきこもり支援に何が求められているかを一緒に考える機会になればと思っています。



学会研修セミナー4

研究実践委員会企画シンポジウム

精神科リハビリテーション領域における研究活動への取り組み方を考える

学会研究実践委員会 佐藤さやか

研究実践委員会では2018年度より「研究法入門セミナー」を開催し、意欲ある会員に対して学術論文の作成過程を伝え、学会発表の論文化や新たな臨床研究の実施などをサポートしてきました。論文作成に関心のある会員のコミュニティ形成という成果が得られた一方で、大学や大学院で行われている「臨床研究を理解し、自分で論文作成ができる人材の育成」を単一の学会で行うことの困難さや、「研究法入門セミナー」でどこまでの内容をカバーすべきなのかという疑問など課題も残りました。

近年、対人援助領域では科学的根拠のある実践が浸透し、実践家が臨床研究に対して抱くさまざまな疑問への対応が職能団体や学術団体に求められています。こうした状況を踏まえて、学会に参加するさまざまな立場の会員にとってどのような情報提供がより魅力的であるのか、今一度検討が必要ではないかと委員会では考えました。

本シンポジウムでは、研究法入門セミナーの成果と課題、看護領域における研究教育の現状、地域支援実践家のもつ研究ニーズと実際の取り組み（例えば行政へのプロポーザルなど）、の各発表を通じて、今後の本学会からの「研究」に関する情報発信の方向性について会場全体で考えたい

と思います。加えて編集委員会からは投稿論文の傾向や課題について指定討論をお願いし、「精神障害とリハビリテーション」誌への投稿がより身近に感じられるような議論ができればと思います。学会における「研究」の普及・定着について、参加者のみなさんとの活発な議論を楽しみにしています。



大通公園 池田理事撮影



池田理事撮影

第33回大会開催予定

会期：2026年12月19日(土)・20日(日)

会場：京都大学

大会長：千葉理恵（京都大学）



02 / Co-design ワーキンググループのご紹介

2024 年度から本学会の活動の一つとして始まった Co-design ワーキンググループをグループ長をされている岩崎理事からご紹介いただきました。

早稲田大学 岩崎香

若い頃、どうして年配の方は昔話から語り始めるのだろうかという疑問に思っていた。しかし、いざ自分が年を重ねてくると、今を語るためにどうしてもこれまでを振り返って、一旦頭を整理しないと前に進まないように感じてしまう。というわけで、昔語りからはじめさせていただこうと思う。

私が精神障害のある方とかかわり始めたのは学生時代で、すでに 40 年以上経過してしまった。その当時、私は大学を休学して、東京都小平市にあるあさやけ第二作業所で 1 年間ボランティアをしていた。小平地域には、いくつかの精神科病院があり、医療機関のソーシャルワーカーと地域のソーシャルワーカーと一緒に退院した当事者の方たちの集まりをサポートしていた。そこに混ぜてもらったのが、ピアサポートとのかかわりの始まりだったと思う。その後、精神科病院で患者会や家族会の設立にかかわったこともあった。20 年くらい前に大学教員となったが、同時に、地域の社会福祉法人に関わらせてもらうようになり、そこで、ピアサポーターと一緒に働くという経験を現在に至るまで積ませていただいていた。

私がそうした道のりを歩んできたのは、本学会の理事として長年貢献された寺谷隆子氏と上野容子氏の影響が大きい。お二人とも、もとは医療機関のソーシャルワーカーで、その後、地域で事業を立ち上げ、大学の教員としても勤められて

いた。ふたりの大先輩が私のロールモデルであり、中でも寺谷氏は、ピアカウンセリングを日本で実践し、広めた立役者でもあった。そのお二人と一緒に取り組んだ第 15 回名古屋大会（2007 年）のサテライト企画「当事者との協働を問うー当事者とは誰かー」において、最後のあいさつで寺谷氏が「精神障害者リハビリテーションの真中に当事者との相互理解を築いていくことが重要だ」と話されたことは、今も私の胸に響いている。

そして、ひょんなことで 10 年ほど前から障害福祉サービス事業所で働くピアサポーターを養成する研修プログラムの構築に携わり、優れた実践家でもある多くのピアサポーターと知り合った。その一人が、Co-Design プロジェクトで一緒にいる彼谷哲志氏である。もうひとりの Co-Design プロジェクトの仲間、坂本明子氏も障害当事者の方とリカバリーカレッジを中心とした活動を長年続けてこられた方である。この 3 人で、Co-Design プロジェクトを始動したが、その初仕事が昨年度の有明大会での学会シンポジウム「学会や研究への障害当事者参加の現状とその意義や課題について考える」だった。他学会での障害当事者の参加に関する現状や障害当事者が研究や学会に参加することによって生み出される効果など今後の学会への当事者参加について具体的なヒントをたくさんいただくことができた。いただいたアイデアを温めつつ、多様な方が



参加している当学会の中で、「真中に当事者との相互理解を築く」ということを具現化する試みを細々とだが、展開していければと思っている。ちなみに今年度は札幌大会の研修セミナーの1枠をいただき、「コプロダクション（共同創造）とリカバリーカレッジ」をテーマに、宮本有紀氏（東

京大学）と黒瀬勝宏氏（リカバリーカレッジ KOBE）を中心に大いに語り合いたいと考えている。

今後の Co-Design プロジェクトの動きに注目していただければと思う。

03 / 理事自己紹介 Part. 1

理事が改選されて2年目となりました。早いもので、来年度は理事選挙の年です。現役理事会メンバー一同、もともとのバックグラウンドを生かしながら、日本の精神科医療、精神保健福祉がより豊かな、効果の高いものとなり、それをまた海外に発信していけるよう（これは広報委員吉見の願いです）、日々活動に励んでいます。本学会は皆様の思っている方向に進んでいっているでしょうか？学会員の皆様が本学会により理解を深め、本学会の一員として活動したい、とっていただけるよう、もしくは、より親しみを持っていただけるよう、理事の自己紹介を掲載すること

としました。今回と次回の二回に分けて、掲載する予定です。来年度理事選にでてみようかな、とか委員会活動に参加してみようかな、おもしろそうな学会だから入会してみようかな（ニューズレターは学会員でなくても読むことが可能です）、など考えながら、お読みいただければ幸いです。以下のテーマで執筆のご依頼をしました。

- ① 職種、資格、立場など
- ② 委員会やワーキンググループでの役割
- ③ 学会関連以外で行っている活動
- ④ 休日何をしているか。



学会長 内野 俊郎

①久留米大学医学部で精神科医として精神科急性期治療やデイケアで臨床に携わってききましたが、近年は外来診療とデイケアがフィールドの中心

です。大学病院では臨床研修センターという若い臨床研修医の指導や管理を行う部門の責任者で

もあるので、全ての医学生や若い医師が精神障害を持つ人たちのリカバリーを支援する視点を持つように育てることが大切な役割であると思っています。

②本学会の第8代会長という重責をお預かりしています。以前は大会委員会や編集委員会の役割をいただいていた。

③精神障害リハビリテーション全般に関心を持っていますが、年々発達障害を持つ人たちの臨床

に携わることも増えてきています。また最近では臨床研修センターとの繋がりで医学教育分野の学会や研究会での活動も行っています。

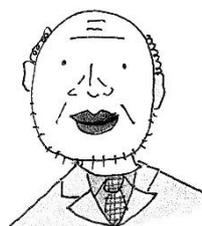
- ⑤ 見た目にはあまり成果が出ていないのが残念ですが、コロナが始まった年から奥さんと一緒に毎晩欠かさずウオーキングを続けています。大好きな趣味は海

釣りで、ルアーという疑似餌を使った釣りでイカや鯛などを狙っています。時間と天候が許せば、九州の北から南まであちこちの海に出かけ、帰りに温泉に浸かるのが幸せです。釣った魚は自分で調理しますが、もっと美味しく食べられるよう修行中です。

学会副会長 吉田 光爾

- ①精神保健福祉、専門社会調査士
 ②総務委員会で活動しています。2024 年度まで10 年近く学会事務局長でしたので、その経験を活かし学会内の運営のマネジメントをしています。現在、年齢的に中堅の理事になっており、副会長も拝命いたしましたので、『精神障害リハビリテーション』に関する新しい発行物についての検討も含め、新しい学会の体制作りにも貢献していきたいと考えています。
 ③普段は東京の東洋大学で、学部での精神保健福祉士の養成と、大学院での Evidence Based Practice に関する研究を行える実践家・研究者の養成に携わっています。個人としての関心は「精神保健福祉のサービスの届きにくい人にサービスを届ける」「精神保健福祉サービスの質を研究

やデータを通じて向上させていく」点にあります。そのため、コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会という一般社団法人の共同代表をしており、アウトリーチ支援の普及・研究活動に従事しています。また厚労省とともに ReMHRAD (<https://remhrad.jp/>) という精神保健医療福祉資源のデータベースを作り、サービスの見える化・モニタリング研究もしています。
 ④家事大好き人間です。時間があれば、庭の手入れや、家族や友人とお菓子作りをしています。問題は製菓が好きでも、甘いもの好きではないので、大量のお菓子を前に途方に暮れることがあることです…



安西 信雄 (あんざいのぶお)

- ①医師、精神保健指定医、精神神経学会専門医・指導医、SST 普及協会認定講師
 ②研究実践委員会と野中賞選考委員会に参加しています。若かった野中猛、田中英樹、松為信雄の各氏と 私が「四人組」と呼ばれていて、学会

になる前の研究会や研究合宿、1995 年の学会設立、2000 年の「精神障害リハビリテーション学」（金剛出版）の発行に積極的に参加しました。2023 年と 2024 年の学会時に特別 研修セミナーとして田中氏、松為氏と私で鼎談「学会 30 年の歴史を語り合う」をしました。野中氏が 2013 年（学会長任期中）に逝去されたのはとても残念でした。2014 年に研究表彰（野中賞）が創設され



ました。私は 2022 年に松田康裕先生に交代するまで、研究委員会と野中賞選考委員会の委員長を務めました。もうひとつ力を入れていたのは 2018 年から安保寛明理事とはじめた研究法入門です。これは実践家が PICO/PECO でご自分の臨床疑問から研究デザインを組み立てるのを支援するセミナーです。

③CBT を踏まえた SST(社会生活スキルトレーニング)と長期在院患者さんたちの地域移行・退院支援をライフワークと考えています。SST 普及

協会の副会長として地域生活や就労に困難をかかえる方たちの支援に取り組んでいます。最近では精神科病棟で「患者さんの疑問に答える SST」や、精神科の職員のための「患者さん 対応 SST」、医療観察法病棟の患者さんの面接や SST に取り組んでいます。

④学生時代に陸上とボートをやっていたので現在も細々とジョギングをしています。最近では ChatGPT と Copilot と楽しみながらやり取りしています。AI の進歩はすごいですね。

大石 甲

①職種：障害者雇用に関する研究専門職、精神保健福祉士、キャリアコンサルタント

②総務・企画委員会、広報委員会で活動しています。総務・企画委員会では、会員総会や理事会の開催のための準備や連絡調整などを事務局と協力して行っています。表に出ることの少ない裏方仕事を中心です。広報委員会では、今後の広報活動へのアイデア出しや、デジタル技術面でのサポートなどを担当しています。

③普段は、障害者雇用に関する研究活動を行っています。令和 7 年度は「障害者手帳を所持していない精神障害者、発達障害者の就労・支援実態等に関する調査研究」と「中小企業における障害者雇用の段階に応じた取組に関する調査研究」を担

当しています。研究成果の一部は本学会の年次大会で毎年発表しています。

④休みの日は、家族 4 人の一週間の作り置きをしています。妻や子供（4 歳と 2 歳）の好きな定番の料理や、まだ食べたことのない料理など、栄養バランスや食育を考えながら 4～5 品ほど作っています。平日は日々の家事・育児に追われてぐったりしていることが多いです。





小野 彩香

① 精神保健福祉士・社会福祉士・職場適応援助者(ジョブコーチ)、認定 NPO 法人 Switch 代表理事

②大会委員会と、研究・実践委員会で活動しています。年1回ある大会運営に関し、連絡調整や学会企画シンポジウムの企画・運営をサポートしています。研究・実践委員会では、本学会の研究・実践活動を活性化するための活動をしています。研究や論文を拝読し、実践の在り方について再考したり、多職種委員の意見も伺うことで、視野が広がる貴重な機会となっています。

③宮城県にある認定 NPO 法人 Switch で、若者の就労・就学・メンタルヘルスにかかわる様々な活動をしています。共同代表理事として事業継承して3年になります。常に社会課題に対して挑戦することをモットーとし、今年は、ひきこもりの方への支援付きアルバイトの地域システム作りに熱中しています。実践家として直接受益者にかかわることができる幸せに感謝し、働きやすく安定した組織基盤作りに努めています。

④3人の子供も大きくなり、今は夫と末娘との3人暮らし。あと1年程で家を出る予定の娘とのお出かけは、何よりも楽しいです。ほかには、温泉巡り、季節に合わせた自然散策、道の駅でのお買い物、グルメ巡りなどを楽しんでいます。

彼谷 哲志

①主任相談支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士、精神障がいピアサポート専門員。精神障害の当事者です。

②研修委員会、Co-design ワーキンググループで活動しています。研修委員会では、多様な職種や立場である学会員の皆さまの関心に沿えるように研修セミナーの企画を考えています。Co-design ワーキンググループでは、学会における専門家と利用者の協働について、シンポジウムなどで形にしています。学会では当事者としての特定の役割はありませんが、当事者の視点を伝えて、お互いの学びになるよう意識したいと思っています。

③普段は、相談支援専門員として障害のある人への相談支援を行っています。専門家と協働するピアサポーターの普及や制度化に力を入れていて、国の障害者ピアサポート研修にも関わっていま

す。精神科医療における人権保証にも関心があり「なぜ優しく話を聴いてくれる精神科病院職員が、過剰な持ち物制限や権利侵害を行うのか」という構造的な問いを大切にして、入院者への面会ボランティアや入院者訪問支援事業の研修にも携わっています。制度への関心もさることながら、WRAP などのピアサポートのある場が好きです。

④時間がなかなか取れないですが、近くの山をハイキングしています。家族と一緒にソロで。森の中や空の広がる稜線を歩くと生きているなあと実感できます。年1回は泊まりがけの登山が目標です。お家でゆっくりミルクティーを味わうことも大切な時間です。





佐拔 洋平

①職種：ソーシャルワーカー、
相談員、資格：精神保健福祉
士、相談支援専門員、WRAP
ファシリテーター

②前期より広報委員として活動しています。主にHPの更新やニューズレターの内容を検討しています。あとは精リハ学会の魅力を多くの方に知ってもらえるような取り組みや会員の方に有用な情報をもっと発信していけたらと考えています。
③これまで精神科デイケアで10年ほど経験した後、計画相談支援や基幹相談支援センターの立ち上げ、運営に携わせてもらいました。基幹相談支援センターではひきこもりに関するアンケート調査、メンタルヘルスに関する市民講座、支援者支援に関する研修等の企画に関わり、地域の居場所やネットワーク作りなどを目指して活動し

てきました。その他、県のピアサポート研修事業にも関わらせてもらっています。

4月から娘の就学に合わせて転職し、新天地では相談支援事業所を立ち上げ、1人試行錯誤の連続です。私の関心ごとは、誰もが安心していられる場づくりやメンタルヘルスの普及につながる街づくりです。

④プライベートでは4歳の息子、7歳の娘がいますが、子どもたちとどのように豊かな時間を過ごせるか、いつも考えているように思います。おかげで夕方になるとへとへとになってしましますが、そんな時はハイボールでエネルギーチャージです。時間に余裕ができれば、最近できていないギターや音楽を聴く時間、友達とゆっくり語れる時間が作れたらいいなと考えています。



澤田 恭一

①作業療法士、公認心理師
②実践賞委員会、編集委員会で活動しています。実践賞委員会では、精神医療・精神保健福祉の分野で素晴らしい支援をされている機関や団体の方々を表彰させていただく『IPPO賞』の選考会議に参加させていただいております。選考会議の中で、委員の方々の精神障害者リハビリテーションにおけるそれぞれのお考えや美学みたいなのところもお聞きすることができていつも刺激を頂いています。編集委員会では、学会誌「精神障害とリハビリテーション」の編集に携わらせ

ていただいております。57号で編集後記を書かせていただいております。
③広島市にある一般社団法人 FLaT の代表を務めさせていただいており、自立訓練（生活訓練）事業所「就労支援センターFLaT」、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス「flat」を運営しています。現在は、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス「flat」に勤務し、腰痛に気をつけながら子供たちとのワクワク探しの日々を楽しく過ごしております。
④休日は家族と出かけていることが多いですが、一人で過ごす時は、ベランダに何個かプランターを置いて、笑ってしまうくらい小さな家庭菜園（土いじり）を地味に楽しんでいます。

ていただいております。57号で編集後記を書かせていただいております。

③広島市にある一般社団法人 FLaT の代表を務めさせていただいており、自立訓練（生活訓練）事業所「就労支援センターFLaT」、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス「flat」を運営しています。現在は、児童発達支援事業所・放課後等デイサービス「flat」に勤務し、腰痛に気をつけながら子供たちとのワクワク探しの日々を楽しく過ごしております。

④休日は家族と出かけていることが多いですが、一人で過ごす時は、ベランダに何個かプランターを置いて、笑ってしまうくらい小さな家庭菜園（土いじり）を地味に楽しんでいます。

西内 絵里沙

①精神保健福祉士

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部に所属し、所沢市より受託した精神障害者アウトリーチ支援事業におけるアウトリーチ支援チームとして、所沢市保健センターを拠点に活動しています。

②総務企画委員会、研修委員会を担当しています。

総務企画委員会は主に理事会の運営を行います。研修委員会は学会大会での研修セミナーを企画しており、その時に話題なテーマや、皆さまにとって有益となるような研修を検討しています。

③メンタルヘルスにおける主な関心はアウトリーチ支援、家族支援です。他団体の活動として、一般社団法人コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会で研修委員を、家族支援関連では一般社団法人ジャパンファミリーワークプロジェクトのトレーナーや、心理教育・家族教室ネットワークのインストラクターとして活動に携わっています。



④休日は何もしないことが一番の贅沢で、なるべく省エネで過ごしています。



吉見 明香

①医師、精神保健指定医、日本老年精神医学会専門医、日本サイコオンコロジー学会登録精神腫瘍医、日本精神科救急学会認定、日本総合病院精神医学会特別認定医、難病指定医

②広報委員会、編集委員会で活動しています。広報委員会では主に、ニュースレターの作成を行っています。また、他の委員の方々と精神障害者リハビリテーション学会をいかに広めていくか、知恵を絞っています。編集委員会では、学会誌「精神障害とリハビリテーション」の編集に携わっています。2024年に理事になる前までは、編集委員として、特集や海外文献紹介などのコーナーを担当していました。

③普段は総合病院に勤める精神科医として診療業務を行っています。リハビリテーションについ

ては、IMR (Illness management and recovery) というプログラムの研究を行っています。今はデータをまとめている最中です。最近のリカバリーカレッジよこはまの準備委員会に参加したり、学校の現場に精神科教育を届ける方法を検討する研究に参加したりしながら、よりよい精神科医療とは何か、そのためにはその近縁にどんな世界があればよいのかを、当事者の方と協働しながら検討しています。

④休日は家族総出で、激安スーパーに買い物に行きます。昨今の物価高と子供たちの教育費の急騰による財政難から、食費を安くする努力の一環です。6人家族（一人暮らし中）でかなりの量の買い物を一度にするので、持って帰るのに、家族みんなの協力が不可欠で、いつも「重い重い」といながら冷蔵庫に食べ物を詰めています。

以上で、Part1の紹介はおしまいです。次号をお楽しみに！



04 / 事務局移転のご挨拶

会員の皆さま、お世話になっております。2025年4月より、事務局が札幌医科大学保健医療学部作業療法学科・池田研究室に移転しました。昨年度までは現副会長の吉田光爾先生が事務局長をご担当されておりました。随分と北に来てしまいました。皆様にご迷惑をおかけすることなく、また、これまでの丁寧かつ正確な事務局業務の質を低下させず、会員の皆様の学術・研修・その他の関連活動を下支えし、学会の発展に貢献できるような運営を心掛けたいと思っております。

会員の皆様におかれましては、学会活動のみならず会費の納入や各種お手続きなど、事務局の運営にも引き続きご協力賜りますようお願いを申し上げます。

(学会事務局長：札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 池田 望)

>> 編集後記

暑い夏が続きますね。きっとまだまだ続くのでしょうか。涼しくて快適な10月の北海道が楽しみです。北海道に行くといつも夜パフェを目指し、街を歩くのですが、眠気に勝てず、結局ホテルに帰る日々が続いています。今回こそ食べたいと思います。(広報委員：吉見明香)

8月上旬、鹿児島県では豪雨災害がありました。私の住む地域でも約1週間の断水があり、JRも運休が続き、生活や通勤に影響を受けました。まさに考える間もなく、あっという間に当たりまえの日常が奪われる感覚がありました。日頃からリスクに備えることは頭で考えるだけでなく、実際に行動うつし形にしておくことが大事だと痛感しました。まだまだ暑い日が続きますが、みなさまも体調お気をつけてお過ごしください。(広報委員：佐抜洋平)

News Letter

VOL.66

2025年9月発行

日本精神障害者リハビリテーション学会

【事務局】

〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目

札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学第二講座 池田研究室

Mail: japr.jimukyoku@gmail.com